

総

論

社会福祉法人 本城会

総 論

本年度平成28年6月1日付、本城会は開設20周年を迎えました。

事業所規模も増え、子育て支援として設立した保育園（ピッコリーノ）も本年度は順調な運営となりました。本城会スタッフの子どもはもちろんのこと、認可保育園に入園出来ない地域住民のお子様を積極的にお預かりしました。

さて昨今、特別養護老人ホームの待機者が減っていることが大きな課題となっています。もみじ苑、ひびきの虹色館は終末期ケアに寄り添う一方で、待機者調整を行いながら切れ目のない入所に繋ぐ努力をしてまいりました。

在宅サービスは、身体機能の自立に向けた生活リハビリに重点をおき支援して参りました。

ご利用者の「尊厳」と「自立支援」に着目した介護、乳幼児の健やかな保育は共に「質を低下させる事のないよう、事業計画に基づき職員一丸となり取り組んで参りました。

また介護や保育に誇りが持てる魅力ある職業として、労働環境の整備、給与規定の全面改定を行いました。（平成29年6月1日施行）

社会福祉等の一部を改正する法律「社会福祉法人制度改革」は、法人定款の変更や評議員の選任等の事務手続きを行いました。

引き続き次年度も 1. 経営組織のガバナンス強化 2. 事業運営の透明性の向上
3. 財務規律の強化 4. 地域における公益的な取り組み等について整備して参ります。

1. 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）定員74名

平成28年度の月平均在籍72.5人

平均年齢 男性79.1歳 女性85.5歳 全体平均年齢79.2歳

平均要介護度は4.04でした

（※平成27年度の平均在籍は（4月～12月）は68人、（1月～3月）72.6人
平均要介護度3.89でした）

本年度施設で穏やかな最期を迎えた（平穏死）方は8名でした。

（※平成27年度看取り12名）

1月初旬に発生したインフルエンザ集団感染は、嘱託医師、感染症対策委員の迅速な対応にも関わらず猛威を振るい、入院搬送と重篤な事態となってしまいました。

施設内感染は1月下旬に回復の兆しとなり、入院者も無事退院し施設復帰できました。

今回の事態を踏まえ、感染媒体の持ち込み、拡大防止について改めて職員の意識向上を図り、感染症発生時の初期対応、迅速な判断の重要性を実感しました。

専門職（OT、歯科衛生士、管理栄養士、看護師、福祉用具など）によるアプローチとご家族視点や介護職のケアの視点でご利用者本位の自立支援に視点を重視致しました。

自立に向けた支援として、特に口腔内の衛生管理や福祉用具の見直しに取り組み実施しました。

引き続き次年度も介護・看護・栄養士・調理員等スタッフが一丸となりチーム力を高め、更に職員間のスキルアップを図り、安心ある介護に努めてまいりたいと思います。

2. ショートステイ（短期入所者生活介護事業）定員12名

平成28年度 定員12名に対して1日平均 10.32人の実績でした

（平成27年度は平成27年度4月～12月は定員16名に対し1日平均10.0人）

（平成28年1月～3月は定員12名に対し、1日平均9.68人）

平成27年度後半からショートステイ4床を特養へ転床し定員12床となり、平成28年度の稼働率は90%を達成することができました。

しかしながら、高齢化、虚弱化に伴う在宅生活の限界と施設入所の順番がきたことで、在宅から施設へと住み替えを希望するケースが多くなってきました。

ショートステイは「可能な限り在宅生活」「レスパイトケア」の本来の利用目的を重視しながら、次年度もご利用者、ご家族のこれまでの暮らしを支えながら支援して参ります。

3. デイサービスセンター（通所介護）定員25名

平成28年度の1日平均利用者数15.3人 登録者数37名 平均稼働率61%

平成27年度～1日平均15.2人 日曜平均利用は10人 登録者44名

平成26年度～1日平均16.0人 登録者42名

平成25年度～1日平均18.2人 登録者51名

平成24年度～1日平均21.6人 登録者58名

デイサービスは身体機能の向上と健康寿命を延ばすことを目的として、リハビリ中心の個別日課を組み立てました。当初リハビリに消極的だった女性利用者も、今では意欲的に取り組んでいます。

しかしながらデイサービスにおいても高齢化に伴う在宅生活の限界と施設入所の順番がきたことで、在宅から施設へと住み替えデイサービス終了となるケースが増えつつ

あります。

今後は健康志向型のデイサービスとしての特色を活かし、登録増の確保に努めてまいります。

引き続き、ケアプラン、記録等の整備、専門的、技術的研修を実施しながらサービスの質の向上を図るべき努力を行います。

4. 居宅介護支援事業所（2名体制）

平成28年度介護支援専門員2名体制で事業を行いました。

継続した在宅生活の支援を中心に、家族介護の力量を見ながら提案する各種サービスは地域、医療、各福祉関係団体、行政と連携を図りながら取り組んでまいりました。

特に老老介護、認知介護、虐待といった在宅介護に起こりうる介護の現状に対して、介護支援専門員は適時適切にマネジメントを行うことに留意をして参りました。

本年度も法人内併設事業所の協力体制のもと、各関係事業所、医療機関、地域との連携を図り、地域包括ケアシステムにおける在宅支援を行いました。

引き続き、次年度も介護支援専門員の質の向上（在宅での看取り、認知症ケアの取り組みなど）と、緊急時の対応、苦情への迅速且つ適切な対応の強化を図ります。

5. 訪問介護（ヘルパーステーション）

本年度、登録数は月平均41名と減少傾向でした。

在宅生活の継続を望むご利用者は、今後も増加傾向であることから当ステーションの存在意義は残されています。

サービス提供責任者、ヘルパーの意識改革を行うことで登録者の増加を図る努力が僅々の課題です。

子育て支援（活動中は本城会保育施設を利用）を行いながら安心して働ける職場環境を整えたことで、ヘルパーの補充もできました。

引き続き、訪問介護員の質の向上を目指しては、介護福祉士の資格取得に向け事業所内外の研修参加を計画的に行い、ご利用者の安心のある暮らしの支援サービスの質の向上に努めてまいります。

6. ケアハウス（軽費老人ホーム）定員25名

最高年齢 男性103歳 女性97歳 平均年齢 男性95.8歳 女性84.8歳

本年度9名の退去があり内4名は併設特養へ入所しました。

稼働率は97%とほぼ順調でした。

日常生活はほぼ自立の入居者がほとんどであります。高齢に伴い疾病を発症する方、急変する方も多くなり、介護職員の医療的介入の必要性が高くなりました。

疾病の早期発見と予防、生活リハビリの強化を働きかけながら予防介護に努め、入居者が喜びと輝きを持って過ごしていけるよう職員一丸となり自立支援に努めてまいります。

7. 地域密着型特別養護老人ホームひびきの虹色館 定員29名

平成25年6月1日開設

平均年齢 男性84歳 女性88.7歳 平均88.6歳

平均介護度 3.96

月平均在籍人数 28.58人

一年一年高齢化が進む中、日常的に予防に視点をおいた健康管理と安寧な暮らしの継続を支援して参りました。

しかし、開館当初に入所された4名が退所（看取り2名、医療機関へ移動2名）となり、高齢化、重度化を感じる一年でした。

オープンから3年目、職員は職場内研修やユニット会議での学びも活発になり介護の力もついてきました。

また、本年度オープニングスタッフ3名が介護福祉士国家試験を受験し合格しました。本年度の成果を次年度に繋げ、さらに介護の質を目指し努力していきたいと考えます。

8. グループホームひびきの虹色館 2ユニット 定員18名

平成25年6月1日開設

平均年齢 男性87歳 女性89.9歳 平均年齢 89.4歳

平均介護度 2.67

月平均在籍人数 17.9人

本年度グループホームはじめての4名（1名看取り 1名特養入所 2名医療機関）の方が退所致しました。

グループホームは高齢者の認知症の進行と同時に、体調も著しく変化することが多く、介護職員の気づきや洞察力がとても重要となります。

定期的な医師の往診と訪問看護と連携を図りながら、現場職員が医療的なケアの介入をスムーズに実施できる体制を構築しました。

グループホームにおいても介護福祉士国家試験を受験し2名合格しました。

引き続き介護の専門職としての知識と実践を重ね、その方を中心とした認知症高齢者のケアを深めてまいりたいと思います。

9. 小規模多機能型居宅介護 ひびきの虹色館 登録定員25名 通い15名 泊9名

平成28年3月末 登録者13名（男性1名女性12名）平均年齢84.7歳
月平均利用回数は26.6回でした。

通いを中心とした小多機、本年度常勤看護師を配置し看護体制加算を算定しました。
看護師を配置することにより、医療機関、ご家族との連携が図りやすくなり、医療的介入もスムーズに行なえるようになりました。

本年度も事業所評価は、小多機の全職員で自己評価、事業所評価を行い、運営推進会において委員より公平な立場で話し合いを進めました

全職員が、評価項目についてできている点、できていない点、またその理由を精査し、地域包括ケアシステムにおいて支援できる体制を見直すことができ、次年度のケア目標に繋ぐことができました。

引き続き次年度も各医療機関、事業所と連携を図りながら在宅支援体制を構築してまいります。

10. 本城会保育施設ピッコリーノ 定員17名

平成28年度は、0,1歳児の申し込みが増え順調な運営を行うことができました。

認可保育所の待機待ち園児がほとんどで入れ替えが多くありましたが、一時的な預かりを受入れたことで、地域で働くお母さまの支援に繋がりました。

保育内容としては、親子参加型の保育参観と遠足を実施することで、保護者との交流も図ることができました。

もみじ苑、虹色館の行事にも参加し、高齢者との交流に「笑顔溢れる瞬間」を体験することが出来ました。

今後も、子供たちの健やかな成長を保護者の方と共に見守り大切にしていきたいと考えております。